

第4回旭川市合葬式施設検討会議

- 1 日時 平成27年10月7日（水） 18時30分～20時30分
- 2 場所 旭川市役所 第二庁舎3階 健康相談室
- 3 出席委員
 - (1) 出席委員10名
雨尾委員，石坂委員，佐藤委員，杉野委員，玉手委員，信木委員，三上委員，三島委員，宮嶋委員，箭原委員
 - (2) 欠席委員0名
- 4 事務局
事務局（市民生活部）4人
今野市民生活部長，林市民生活課長，成田市民生活課長補佐，鈴木
- 5 会議の公開・非公開
公開
- 6 傍聴者の数
0名
- 7 会議資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 合葬式施設整備の基本的考え方
 - ・ 資料2 旭川市合葬式施設検討会議 報告骨子（案）
 - ・ 資料3 旭川聖苑写真資料

第4回旭川市合葬式施設検討会議の記録

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 前回会議の確認等

事務局から会議資料に基づき説明を行った。

(2) 意見交換

発言要旨のとおり。

(3) その他

発言要旨のとおり。

4 閉会

〈発言要旨〉

(座長)

こんばんは。

本日も、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。前回会議の最後に、この会議の成果として市への意見の出し方について意見集の形でまとめることで賛同をいただいた。そこで、みなさんの意見や希望を取り込んで私が事務局に骨子案を作成するよう指示していたが、本日はこの骨子案に基づき意見交換をしていきたい。

まず議題の1番目、前回会議の確認として意見集の骨子案について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(事務局から資料に基づき内容説明。)

(座長)

事務局から意見集の骨子案について説明があったが、市民アンケートや地域まちづくり推進協議会からの意見徴収、前回の検討会議で皆様からいただいた意見を整理したものを踏まえ作成したものになっていると思う。本日はこの骨子案に追加したい点や修正する部分があれば意見をいただき、次回会議でこの骨子案に肉付けして作る意見集の確認ができるよう意見交換したいと思う。皆さんから意見をいただく前に骨子案について質問などがあればいただきたい。骨子案について、キーワードとして早期整備、旭川らしさ、そして優れた候補地として旭川聖苑が心の安まる景観の施設になるのではないかと提案が具体化してきたものであるが、いかがか。

(委員)

1施設の整備だけではなく地域に分散した整備とあるが、それは聖苑の敷地の中でいくつか造るということか。聖苑以外の場所にも整備するということか。

(事務局)

市内に14箇所ある地域まちづくり推進協議会において意見交換をさせていただいたときに、どこか1箇所だけではなく、地域にそれぞれあってもよいという意見が複数の推進協議会の意見交換の中にあつたため、そういったことについても記載している。

(座長)

地域まちづくり推進協議会は14箇所あり、1箇所で14～15人程度であれば200名ぐらいの人たちから意見をいただいたということですね。

それでは、皆さんから意見をいただきたいと思う。それでは、お願いします。

(委員)

この骨子案に関して、二つほど気になったところがある。一つは現状と課題というところに経済性という言葉が一つも入っていないということ。市民アンケートでも経済的な問題というのが一番か二番に多かったと思う。お金がない方やあるのだが昔のように先祖のお墓にお金を回すことができない人が結構いると思う。そういう状況が今いろんな問題に関係していると思うため、この経済的な問題が一番強く背景にあるという気がする。つまり、外面的な話になるが、これから抱えるお墓の問題というのは個人管理から公共管理にならざるを得ない状況になると思い、そういうことが何か欠けているという気がした。現代の人たちは私も含めてそうだが、宗教的な儀式というものをどんどん簡素化していく傾向にあり、お墓に関してあまり時間もお金もかけられないことが一番大きいと思う。ただ単純に高齢化社会や市民ニーズへの対応の背景にあるものがそういうことだろうという気がしたので、その辺りについての言葉をどこかに入れておく必要があると思った。

それから、市民アンケートの結果を踏まえて、市民ニーズの高まりは言うまでもないことであり、すぐに必要という意見が非常に多かった。これは旭川市としても早急に現実的なものとして知っていかなければならないという段階にきている。早急にやらなければいけないことと、もう一つこれまでの会議でも発言したが、同時に継続性みたいなものが必要だと思う。単年度でできるものでもないはずだし、これからのお墓に関して市民や我々も含めていろいろな考えを持っており、かなり個人差があるような気がする。それにどのように対応していくのかを考えたいときには、何か形のあるものを一つ造れば終わりというものではないと思うため、何年度かに渡って継続的にやっていかなければいけない事業だと捉えている。そうすると、これから段階的にどうしていくのかということ、どこかに一言入れていただきたいと思う。委員の中にも自分のお墓に関しては、かなり個人差がある発言をされており、それが市民全体の現状だと思う。様々なニーズに応えていくためには年度計画など段階的な考え方は必要になり、私が一番大事にしているところはそこであり、どこかに一言触れていただきたいと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

他委員の方に私が思っていることはだいたい言っていたが、骨子案には旭川聖苑以外の複数整備についても書いてあり、私もそのように考えた方がよいと思う。とりあえずどこかを拠点にして、あとは継続的な形で進めていってほしい。それと費用も極力低く抑えてほしいが、前回も意見が出ていたグレードを付けてもよいと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

地域に分散した整備の検討は、自分の家の遠くではなく近くにも何個があればよいという意見だったと思うが、他委員も言っていたようにまず一つ造って、それから必要かどうかを考えることがよいと思う。市民へ理解してもらうために徐々にPRや啓発を行う必要もあると感じている。

昨日、消費者協会に女性の方が訪ねてきて、自分は癌を再発し手術ができない状況であるが、合葬墓はいつできるのかという相談を受けた。その方は四十九日に納骨堂かお墓に納めなければならないと思っている方であったが、万一のときにはお墓ができるまでお家にお骨を置いておけることなどの話をした。市の施設はできるだけ早く整備してほしいと考えていたようであり、本当に施設が望まれているということを感じた。

それから三つ目は、これからいろいろな面で具体的に進んでいくと思うが、そのときに東京の方の専門家に任すとか、高いお金を払ってデザイナーに頼むということがあるのかもしれないが、その前に市民の盛り上がりや周知するためにも例えば市民から、イメージコンテストや絵のコンテストがあっても楽しいと思う。それから少ない人数よりも、市の職員で特に若い職員の方は優秀な方がたくさん入って来ているのだから、そういう方たちに実現しなくてもいろいろな意見や夢を語ってもらい、それを参考にするのもよいと思う。それからアンケートをとれば使用料は安い方がよいという結果が出るのははっきりしているが、市の財政を考えると、バランスのよいそれ相応の対価というものをきちんと考えて市民にきちんと理解してもらうことが必要だと思った。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

前回会議を欠席し申し訳ありません。骨子案を見せていただき概ねよいと感じている。検討会議の意見として視野に入れる分散の関係について、いろいろな理由があるとは思いますが、管理、規模、整備にかかる費用を含めて話した上での骨子案になっていると感じている。近くにあった方がよいというニーズはもちろんあってしかるべきかと思うが、まずは一つ建てた上でその後のニーズ、希望に応じてまた再検討する案件なのかと感じていた。それと骨子案の中でソフト面のことは今までどれぐらい話されたのか分かっておらず申し訳ないが、これから検討会議の中でどこら辺まで関わっていくのか。対象枠はどんな人たちで一度でも住民票を残している人が使える所なのか、費用や申込みの規則的なものもこれから調べる話になっていくと思う。その辺の考え方として安ければよいというところよりも、もう少し踏み

込んだところがあると思ったが、そこら辺は事務局が考えるのかと思うが、そこだけ聞きたいと思った。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

私の方では骨子案について特に話はないが、こういうところまで進んでいる中で、この会議も当初の話からすると今回とあと1回ぐらいだと思う。前から話が出てるように札幌市、江別市を見た上で合葬の造り方として例えば私の希望する樹木葬など具体的なことについて意見交換する会議の時間が今あるのか心配になった。市と座長から回答をいただきたいが、この会議の中で樹木葬なのか合葬墓碑の方にするのか具体的なものを決めていく時間はあるのか質問したい。

(事務局)

具体的な内容の検討時間について当初の予定では1回ないしその取りまとめのために1回程度というスケジュールであったと思う。これまで意見をいただいていた樹木葬などもあるが、この会議でそこまで決め打ちできるかということもある。それは骨子案の施設形態、デザインについて、旭川らしさを感じられるようなものということも載せてある。座長からもそういう話をされているが周囲の景観と調和することなどを考えたとき、資料の写真のように聖苑は周囲に木が生い茂る山を背中にしている。そういう意味では景観的に樹木葬に近いということも一つあるが、合葬式施設として樹木葬という形がよいのかについて答えが出ているものではないと思う。これまでも意見が出ておりそういったものを考える必要が出てくると思うが、他市施設の説明をしたときにも雪が降る北海道で果たしてどのような形がよいのかなどは説明した経過がある。これまで何回も意見交換されていたが、場所についてしばらく時間がかかるようでは、何よりも施設の整備を急いでほしいというニーズに応えていくことができない。何のために整備するのかということになってしまうので、まず早く整備するという中では旭川聖苑が現段階では一番有利な所だということが前回までの会議の在り方だったと思う。その中において聖苑で考えたとき樹木葬という形がどういった形になるとか、もう一つは旭川市民が市民のお墓としてあそこへ行けば何か安らぎの気持ちになれる、もっと言えば誇りに思うということについて単に木があればよいのか、合葬墓と書いてある石があるだけでよいのか、そうではなくてもう少し旭川というものをみんながいろいろなイメージができるようなモニュメント性の高いものがあればよいのかといった選択肢はいろいろあると思う。これまでもそういった意見をいただきましたし、それぞれいろいろな考えがあると思うので、そういうことをこの会議で結論として出せるのかということ、それだけではない要素がたくさんあると思う。もちろん意見は意見としていただくし、

まとめ方は座長とも打ち合わせしたが、それらを含めて、まず出された意見である明るいイメージ、人が集まれる施設、施設のデザインとして周囲と調和し、そこから見た景色が旭川らしさを感じられるように配慮し造ることで結果的にそれが樹木葬なのか江別市のような施設なのかの判断になると思う。管理や雪の中での活用の仕方はもう少し専門的な考え方も必要になり、最終的に判断する際には答えを出さなければならないと思う。意見としていただく中で最終的にどうするのかだと思うので今ここで樹木葬にすべきだとか、そうでないものにすべきだとかという答えはなかなか出しづらいのではないかと思っている。

(委員)

今の説明はよく分かるが、この会議に参加した考え方としては、少なくとも委員全員の、ある程度一致した方向性の結論として、樹木葬になるのか合葬墓になるのかという一つのけじめというものがほしいと思う。当然早急に決まるものではないのは分かるが、この会議として残り多くても3回の中で結論もなしに終わるのは尻切れトンボのような気がしてしまう。考えは十分伝わったが、自分としてそういう話で終わるのであれば不満が残る気持ちがある。この会議の結論的な要素を確定ではなくても、みんなの意見のまとめという形の中で少しは自分が参加してこういう方向に向いたという気持ちになりたいが、今のままであればなれないような気がした。その辺、座長のお考えはいかがか。

(座長)

お配りした資料にある施設の形態については、今のところ皆さん方向は一致していると思う。もう少し具体性を持ったものとして時間をかけたいという意見だと思う。

(委員)

時間をかけたいというよりは、この会議が終わったときに、今の形であれば自分は一体何をしたのだろうという気になる。具体的に樹木葬になったとか江別市の施設に似た合葬墓の形になったとか、ある程度先の流れが見えていく中で結末を迎えて終了するのであれば自分がここに参加した主旨を感じられるが、先送りになるような話で会議が終わってしまうと心残りだと思う。そういった部分で骨子案に、結論の方向として具体的な内容を少しは感じて終了できるのか少し不安になった。

(座長)

次回の骨子案に肉付けする際にそれは付けたいと思うが、委員の皆さんが具体的に一致した意見に必ずしもなるということは分からない。座長としては雪が降る北海道での管理について、私たちが持ち合せない専門的な管理運営を考えなければいけない面があるので、私たちの役割は、早急に整備するという方向性を基に今の骨子案に肉付けする方向で行きたいと思う。ただ最終判断は私たちの手にはないはず

であり、整備する際の方向については、市民のニーズを把握した上で意見交換した
明るいイメージで市民の心が安らぐものということのみなさんの賛同をいただいた
のが今の状態であり、これを肉付けする際には委員の意見も貴重な意見として反映
するように努めるが最終判断ではないことは理解していただきたい。

(委員)

分かりました。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

今日が初めての出席で大変申し訳ございません。これまでの意見交換でされた整
備の具体的な方向性は事務局から何度か説明を受けており、皆さんの議事録も拝見
したので、今の方向で私はよいと感じている。私は今、老人福祉施設の団体として
委員になっており、私自身は特別養護老人ホームを二つ経営している。大体200
人弱ぐらいの入居者がおり、特養は症状の重い方が入居されているため年間に30
人から40人ぐらいの方がお亡くなりになる。私どもは最期の見取りまでやってい
るので施設の職員と私は大体お参りさせてもらう。既に議論されたことかと思うが、
最近、家族葬がとて多くなってきたと感じており、その際に集まる家族も少
なくなったと思う。

もう一つは家族葬について、お父さん、お母さんが旭川で最期を迎えられるが、
子供たちが遠く離れているというケースが多く、合葬式施設の整備はなるべく早い
方がよいと思う。具体的な話になれば、先ほどの話にもあったようにお一人、お一
人いろいろな考え方を持っていると思うので、そこら辺は最終的に集約し決めてい
かざるを得ないと思うが、ここでは方向性くらいまでしか意見交換できないと感じ
ており、具体的には事務局で詰めてもらうしかないと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

基本的に私はこの案でよいと思う。他委員の樹木葬の話もそうだが気が付いてみ
たら森に囲まれたお墓が市民の眠るお墓になっていたということを実現できるのか
もしれない。他委員のように今私たちが生きている段階でベストなものを造ったと
しても将来いろいろと変わっていくと思う。場所の余地、考え方の余地、手法の余
地を我々の後に続く者たちのために残しておくことをどこかに入れてもらおうと嬉し
い。

それともう一つ、今回とてもよいきっかけだと思うが子や孫に迷惑をかけたくな
いという点について、今の日本中がそうになっている。この前の新聞を見ると、高校

生に聞いた意見として、何としても親の面倒を見るという高校生は日本で37.9パーセントしかいないが、韓国は70パーセント、中国は90パーセント近くいるという記事があった。日本の私たちの世代は戦後の混乱を超えてきたから、もうそんな迷惑を子供たちにかけたくないというのはあるが、果たしてこれでその子たちのその次になったときにはどうなっているのかと思う。国をつくるという意味では私たちがこんな甘いことを言っていてよいのか最近引っかかっているが今はそうなので、それはそれでよいと思うが、このままだと日本は危ないのではないかという感覚さえする。

もう一つ特に強調したいのは、骨子案に書いてあるように、いわゆる無縁仏の墓とは違うということはきちっと謳っておくべきではないかと思う。これは重要なことだと思う。

そして他委員の言うとおりの維持管理についても個人から公共が管理するものに変わっていくのかもしれないが、もっと先ではまた変わっているかもしれないという気がする。そういうことのためにも、遊びしろというか場所的にもデザインの的にも残しておいた方がよいという気がする。ただ現時点で旭川聖苑であれば付近住民の理解を含めて、早期整備の実現に向かうことができるという意味でよいと思う。将来の国を守る人たち、地域を守る人たちのために何か余裕を作っておいてあげたいと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

今の他委員の意見の延長になるが、先祖を敬う、親子の絆を深めるという意味から言うと合葬式施設が正しいという植え込みがいけないと思う。何かの事情があって施設を利用するという一つの壁があってもよいと思う。子供たちは学校を卒業すると本州に行ってしまう結局親が地元に残っている形態がかなり多いと思う。その辺から考えるとその状況が正しいという雰囲気ではない合葬式施設になってほしいと思う。

もう一つ他委員が言っていたようにこのアンケートで経済的に困って合葬式施設を望んでいるという人がどれだけいたのかと思う。アンケートに回答している人はそれなりの方たちだと思うので、財政的にお墓もつukれないお葬式もできないという無縁仏になる少し手前の人たちがどれだけ希望しているのかと思う。そのような方たちも利用するとなれば、みすぼらしくてもだめだと思うがスケールはあまり大きくしない方がよいと思う。施設を管理するために市の財政負担が大きくなる設計ではなく精神論になるが先祖を敬うという精神から考えると、応分の負担をして行政にあまり負担をかけないで利用する人には多少の責任を負ってほしいと思う。市

で整備するのだから何でも市でやりなさいという今の傾向はよくないと思う。樹木葬という話もあったが木というのは50年経てば枯れたり倒れたりいろいろな問題が出てくる。素晴らしい木が100年そのままということはなく倒れてしまうこともある。景観的に樹木があることで素晴らしい場所にすることはよいと思うが、例えば木を植えてそこに納骨をするという施設をたくさん整備しても市が管理していくことは大変だと思う。座長が言っていたように冬のことも考えた場合、あちらこちらに道を造るよう言われても大変だと思う。そのため当初の施設は1箇所にして、場所的に聖苑がよいのであれば、親戚の人などが埋葬されている人が夏は聖苑の敷地内を少し歩いて合葬式施設に行けるような環境づくりを考えた方がよい。それから交通の便など利用しやすさというテーマについては、親や先祖を敬うためには多少の時間はかかってもよいと思う。東西南北に1箇所あれば便利という発想は、何のための便利なのかと思うし、将来あちらこちらに整備することを大前提にすると大変だと思う。まず聖苑の敷地内に市民が行ったときに少し散歩してお参りできるようなつくりがよいと思う。個々にはいろいろあるが全体像でそう思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方をお願いします。

(委員)

私が今までの会議を聞いていて、一つ付け加えたいのが市民アンケートや対話集会に出てきている人の年齢層はある程度高いと思うため、今の20代30代の方が自分たちの親や祖父母のお墓をイメージした意見が入っているのだろうかと思う。若い人たちにお墓について聞いたとしても具体的な考えまではないかもしれないので、全部についてはではなく、例えばお墓を造るときのイメージの意見を取り入れるとよいと思う。

(座長)

皆様から発言いただきましたが、会議の終了時刻まで多少時間がございますので、追加で意見がございましたらお願いします。

(委員)

樹木葬について冬の期間があるので難しいという意見があったが、江別市は樹木葬ではないが冬はほとんど雪で覆われているため納骨はしないと思う。北海道の場合、例えば1月、2月に亡くなられた場合は遺骨をある程度置いておくこともあると思う。

(座長)

江別市では3月の彼岸に除雪をして、それからお墓参りするという事だったと思う。

(委員)

そういう意味では樹木葬について雪がどんなに降っても差し支えないと思う。樹木葬とは別の話であるが、外国では亡くなってから50年経過すればそのお墓はいわゆる有効期限が過ぎたという考えがあるように、何百年も前に亡くなった人のお墓参りをするということや家族という認識はなくなると思う。

(委員)

何十年となれば親ではなく先祖という感じがする。だいたい30年で一緒にすると聞いたことがある。

(委員)

そういう意味では合葬だとしても50年経過することを考えれば樹木葬でもそんなに問題にしなくてよいと思う。

(委員)

お墓を建てるということは、一代二代ぐらいで終わるものであればよいが三代四代と続けてお守りする人がいて、そこに親や子供たちが納められてつながっていくことだと思う。それができない人が合葬施設に納められると思うが、合葬式施設であっても、祖父母、親を納骨することで孫ひ孫の代まで50年以上、伝統的にお参りする人もいると思う。

(委員)

私は最初から合葬式の施設だと考えていた。樹木葬なのか合葬墓なのかというふうには捉えていなかった。長沼辺りで樹木葬をやったときに住民の反対運動があったと思う。

町の中でお骨が見える形の方法はできないと思うが、樹木葬もいろいろあるので検討の余地はあると思うが、皆さんもイメージとしては合葬式の施設ということだったと思う。将来的に民間でも樹木葬を取り入れるのかもしれないが、まだ難しいと思う。

(委員)

樹木葬の意見交換をすると今度は海への散骨などという話になってくると思う。樹木というイメージも必要かもしれないが、そういったイメージに合うような合葬式施設ということを考えに入れていくことがよいと思う。

(委員)

皆さんのイメージが違う部分は合葬墓と合葬式とが混ざっているところだと思う。札幌市や江別市などいろいろなケースを視察などでも見てきた。大阪市ではかなり立派な建物で納骨堂まであるケースもあった。それを整理すると先ほど個人から公共という話をしたが、お墓は個人的なものでお寺であっても檀家として個人のものであった。ところが最近はお寺で納骨堂を買うというケースが増えてきた。お墓は区画を買って墓石を建てる数百万円必要になるため、今は新しく建てるという人は

多くないと思う。そんなお金があれば別のところに使う気がする。私が先ほど言ったのは、お金がないからではなくて別なところにそのお金をかける傾向が出てきているということ。もう一つはお寺が納骨堂という形を増やし、50万円くらいで利用できるとなればお墓を建てるお金はなくても納骨堂に骨壺を入れる区画だけを買うケースが増えてきたと思う。もう一つは公共として市で一つの場所に市民や希望する人は全員納められるという形が合葬式だと思う。その合葬式の中に江別市のようなモニュメントが一つある合葬墓を建ててその下にみんなで納めるものをイメージされた方もいると思うし、樹木葬も合葬式の一つだと思う。公共でそのような形をとるのであれば、横浜市にも合葬式の墓地の中にそういうケースもある。北海道で可能かどうかは別な問題としてそれも一つの形であり、どれにするのかという問題ではないと思う。今それが混ざっている。最初の会議で質問したが、大阪市の施設は立派な丸いモニュメントや献花台があり建物だと思う。合葬式の施設として建物のようなものを検討会議でイメージしてよいのか。それについて、他委員はどのようなイメージをされているか。

(委員)

塚だけではなく、モニュメントなどがあるような明るいイメージのものの下で眠るのが合葬墓かと思っていた。

(委員)

大阪市のケースは地下に納骨堂があると言っていたが、そういう施設は既に日本にできている。この検討会議として、合葬墓というモニュメントのようなものを一つ造りそこにみんな納めるというイメージをするのか、それとも納骨堂まで含めて市が管理するというのを検討してよいのかは大きな問題になると思っていた。経費が違ってくる。合葬墓を一つ造るのであれば、単年度でもできるかもしれないが、例えばお花を献花してもカラスに持っていかれるため屋根を付けるとか、樹木葬とか合葬式の様々な種類を全部ひっくるめて一回にできるのかということも最初に言いたかった。たぶんそれは難しいと思う。仮に今、世の中にあるニーズの多様化に対応する施設を造ったとして他委員も言っていたとおりまた別なニーズも出てくるかもしれないし、また変わっていくかもしれないし、全部に対応することを一回ではできないと思う。検討会議の総論としてはこれで問題ないと思うが、各論にはまだ入っておらず、具体的にどういうものを造るのかという話になってからだと思う。そこで少なくともこの検討会議として、まずこういうものを造ろうという形に収めた方がよいのかどうかということ。あともう一回会議はあるが、いわゆる総論で終わるのであればこれで私は構わないと思うが、委員の皆さんの最後の意見として、まず必要とされているからこのような感じのものを造ってほしい、ただし、まだまだ市民のニーズにも様々な形があるので、例えば、次の段階ではこういうものを造

ってほしい、その次の段階ではこういうものを造ってほしいというような形にしていくべきというのが私の最初からの意見だった。

(委員)

そもそも論に戻ってしまい大変申し訳ないが公共の施設を造るときに今まで造ってきたものがお荷物になっている。できる限り合葬式施設が迷惑のかからない、お金のかからないものを造ることを大前提にしてもらいたいと思う。旭川では年間に1,000人から3,000人ぐらいの人口が減っているし、全国的にも旭川以外の道北でも人が減っている。合葬式施設を造ったとしても、結局市民の人たちで負担していくわけだから、私はあまりお金のかからない施設がよいと思う。交通の便は旭川であればどこも大きく変わらないと思っており、そういう意味では聖苑であれば冬の除雪などにしても一体的にやれることなど孫や先々に迷惑がかからない一番よい場所だと感じる。

(委員)

各論には入れないのではないかと思います。各論に入っていたらいつまでも完成しない。

(委員)

造ることと方向性をだいたい決めたら会議としては十分だと思う。

(委員)

それ以上先のことは専門的に勉強された人たちの意見が必要だと思う。

(事務局)

これまで私どもも十分に説明できていないと思うが、この会議でいろいろな意見が出されても、それは検討会議の一つの成果ということになる。ただ、今までの意見交換の中で私どもに響いているのは、まず早く造ってほしいということ。これはアンケート結果や皆さんの考えも含めてそれが一番だということは私どもも十分分かっている。早期整備を考えたときにある程度の方向性がないとさらに時間がかかってしまうので、そういう意味では前回会議である程度方向性としてまとめたときには市として作業がしやすくなると感じた。そこで各論をどうするのかについて、皆さんの意見も含めてまとめることが一番分かりやすく、会議の成果としても見やすいと思うが、先ほど委員が言っていた樹木葬、墓石、散骨といろいろな方法やいろいろな考えの方がいる中で会議として方向性がまとまるのかというところはある。市として最終的に決めるときには、管理の方法や財政的な問題などを考えなければならない。これは個人の感覚であるが、候補として聖苑の意見交換をされていたときに、聖苑は周囲が山であり反対側には大雪山や十勝岳連峰が見えるなど、よく考えるとすごく贅沢な庭だと思った。

先ほど意見に出ていた樹木葬を実現するとなれば場所は相当必要になってくると

思う。最初は一画でよいかもしれないが何年も経つと、容量に限界があるため場所の確保について考えたとき聖苑でよいのかということにもなり時間がかかってしまう。そういう意味で骨子案には座長が配慮して旭川市らしさが感じられるようなものというふうに書いてあると思う。

見せ方はいろいろあると思うが旭川型のオリジナルの樹木葬として、施設を見ると何となく樹林に囲まれているような新しいタイプの合葬式施設としてクローズアップされればそれはすごくよいことだとは思う。個人的な意見も入ったが、今いろいろ意見をいただいた中の継続性の話について、木を植えたとしてその自然の姿も10年20年経ったときには違う形になっているかもしれない。後世、私たちの子供の代がいろいろ考えてデザインするということもあり得るだろうし、そういう弾力性がこの聖苑を考えたときには比較的であると個人的には思った。その上でほかの地域ということはあるかもしれないが、早期整備を考えたときには総論では聖苑として各論で出されたいろいろな意見に近づくようなものを市としても知恵を出して考えていく形のまとめ方であれば一番現実的ではないかと思う。

(委員)

他委員の話にあった先祖を大切にするという心がどこかで記されるようにしたい。そうしないと日本の文化というものがおかしくなっている気がする。

全く表に見えなくてもよいので検討会議では、そういう意見もあったというようなことにしてほしい。

(座長)

他委員が、お墓は精神論だと言っていた。施設としてみずばらしくてもいけないが使用料として応分の負担を求めるという考え方だったと思う。

(委員)

自分たちも死んだら終わりという気持ちは十分あるが、生きているものの努めとして先祖を大事にするということは失ってはいけないと思う。

(座長)

それでは、そろそろ終了時間前ですが、他に発言なければ意見交換は以上とします。

皆さまからの意見を踏まえ、私が整理をして事務局に骨子案を修正し、たたき台を作成するという形でよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(座長)

ありがとうございます。その他の事項、事務局からお願いします。

(事務局)

活発な意見交換ありがとうございます。座長からも話があったが次回の会議に向けて、この骨子案に本日いただいた意見を加えて、たたき台を用意したいと思う。次回はそのたたき台について意見交換していただき、それが最終的な形になると思う。当初5回くらいの予定と話していたが、視察も行っているため、たたき台の議論をしていただき一回ないし二回で最終的に確認、微調整ができるようにしたいと思っている。スケジュールは後日決まり次第連絡したい。

次回も引き続きよろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

(座長)

以上をもちまして本日の議題を終了させていただきます。委員の皆さま長時間にわたり意見交換をしていただきましてありがとうございました。